

平成31年 3月 8日
矢作川流域圏懇談会事務局
中部地方整備局豊橋河川事務所

流域は一つ、山・川・海、調和のとれた
矢作川流域圏の発展を目指し、様々な活動を展開
～9年間の取り組みと成果、今後の活動計画について話し合います～
矢作川流域圏懇談会 第8回全体会議を開催します

1. 概要

矢作川流域圏懇談会は9年目を迎え、山・川・海の参加者が主体となり多くの課題解決に向けた活動を展開しています。

山部会では、矢作川の山の課題を「人と地域の問題」と「森の問題」の2点に絞り、4つのテーマ（・山村再生担い手づくり事例集・山村ミーティング・森づくりガイドライン・木づかいガイドライン）について検討、実行を行っています。

川部会では、「生き物の棲みやすい川づくり(上下流問題)」と「地先の課題」を課題とし、本川モデル、支川(家下川)モデル、地先モデルを選定し検討、実行を行っています。

海部会では、「ごみ・流木の問題」「豊かな海の生物調査」「海と人の絆再生」「干潟・ヨシ原再生」の課題について、検討、実行を行っています。

市民部会では、山・川・海各部会での活動の情報交換や、流域圏一体の取り組みに向けた議論、市民提案による勉強会等の活動を行っています。

今回の全体会議では、各部会の平成30年度の活動成果の報告と今まで9年間の取り組みと成果、今後の活動計画について話し合いを行います。

2. 日時

平成31年3月15日(金) 14時30分～16時30分

3. 場所

愛知県西三河総合庁舎 10階 大会議室

住所:岡崎市明大寺本町1-4

電話:0564-23-1211(代表)

(名鉄東岡崎駅から徒歩5分)

駐車場は、庁舎棟東隣りにありますが、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

4. 添付資料

- ・矢作川流域圏懇談会パンフレット
- ・山部会、川部会、海部会の活動進捗報告

5. 解禁 指定なし

6. 配布先

豊田市政記者クラブ、豊田市政記者東クラブ

岡崎市政記者会、岡崎新聞記者会

恵那記者会、岐阜県政記者クラブ、飯田市記者クラブ

〈問合せ先〉

事務局：中部地方整備局 豊橋河川事務所 事業対策官 神本 崇

電話:0532-48-8107(ダイヤルイン) FAX:0532-48-8100

水と人がつなぐ山・川・海 皆で取り組む流域一体の川づくり



国土交通省 中部地方整備局 豊橋河川事務所 矢作川流域圏懇談会

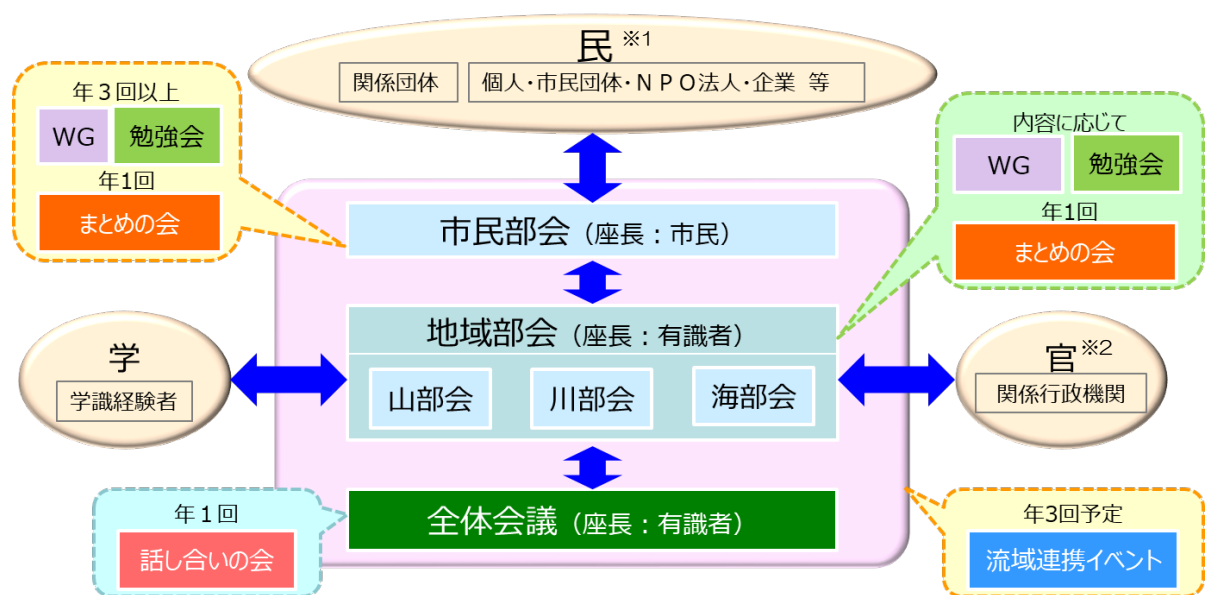
■矢作川流域圏懇談会とは



- ◆目的：河川整備計画に基づき、河川管理者だけでは解決できない課題に対し流域一体となって取り組み、互いに連携し、いい川づくりと調和のとれた流域圏全体の発展につなげること。
- ◆メンバー：個人・市民団体、関係団体、学識経験者、国・県・市町村など300名以上
- ◆活動内容：市民が中心となり、矢作川を学び、意見交換を行うことを通じて、流域圏の課題を自分たちで提案し、その解決に向けた、流域圏一体の取り組みを行っている。



■活動範囲



※1：森林組合、漁協、土地改良区、中電、矢水協など
 ※2：国交省、環境省、農水省、林野庁、愛知県、岐阜県、長野県など

■矢作川流域圏懇談会イメージ

■市民が中心となって、流域圏の課題に取り組んでいます



【市民部会】
 <これまでの主な活動>
 ・市民企画会議 (WG)
 ・市民部会 (市民会議)
 ・市民提案による勉強会 (森の健診、生き物調査、河川事業の勉強など)

各部会での活動の情報交換や流域圏一体の取り組みに向けた議論、市民提案による勉強会等の活動を行っている。



【山部会】
 <これまでの主な活動>
 ・流域圏 (山村再生) 担い手づくり事例集の作成
 ・矢作川流域山村ミーティング
 ・森づくり、木づかいガイドラインの検討

検討テーマである「人と地域の問題」、「森の問題」を解決するため、事例集、ガイドライン作成に向け活動している。



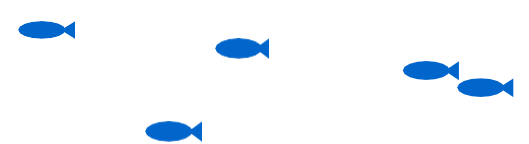
【川部会】
 <これまでの主な活動>
 ・矢作川の瀬・淵調査と保全・創出方法の検討
 ・家下川 (支川) の段差解消・水源確保の検討
 ・川の活動情報の共有
 ・河川事業のチェック

「魚の棲みやすい川づくり (上下流問題)」「地先の課題」をテーマに、モデル地区での検討を進めている。



【海部会】
 <これまでの主な活動>
 ・ごみ・流木調査
 ・干潟生き物調査
 ・三河湾内水質調査
 ・海へのアクセス調査
 ・三河湾におけるアサリ漁業実態の情報共有

「親しみやすい豊かな海」の実現を目標に、ごみ・流木問題、絆再生、干潟・ヨシ原再生をテーマに活動している。



矢作川流域圏懇談会の活動進捗

1. 山部会 平成 30 年度の活動成果 まとめ

流域圏担い手づくり事例集

【成果①】

- ・ これまでに作成した流域圏（山村再生）担い手づくり事例集の取材先の団体と取材者を対象とした交流会を昨年につき4月に行った。新たな発想の展開や人間関係を育む場として、有意義なイベントになった。また、川や海部会の出席者も加わり、近年の漁獲量の減少（特にアサリ）においてはそれぞれの立場から積極的な意見交換が行われた。この議論が合同部会設置のきっかけとなった。



事例集交流会の様子

【成果②】

- ・ 昨年度につき川部会のテーマである地先モデルと協働して、流域の発展に寄与する団体の取材を行った。

【成果③】

- ・ 流域圏担い手づくり事例集を作成するため、山に関係する 12 団体、川に関係する 7 団体、海に関係する 1 団体合計 20 団体を訪問し、レポートの作成を行った。



取材時の様子（愛知・川の会）

【成果④】

- ・ 事例集作成に関わった取材先と取材者を中心とした交流会を次年度も実施することになった。

山村ミーティング

【成果①】

- ・ 流域の林業の担い手がおかれている実態の把握と改善の糸口をつかむため、前年度につき根羽村森林組合、恵南森林組合、豊田森林組合、岡崎森林組合の林業作業班を中心とした矢作川流域林業担い手 100 人ヒヤリング（矢作川流域林業就労中堅離職問題実態調査）を行った。今年度は半数を超えるヒヤリングを終え、中間とりまとめを行った。また、次年度のヒヤリングに向けた準備を開始した。



流域の森林組合集合写真

【成果②】

- ・ 矢作川感謝祭では、根羽村、恵南、豊田、岡崎の流域 4 つの森林組合が一堂に会して森づくりや木づかいの PR 活動を行った。また、東幡豆漁協が海の生き物を展示し、参加者に海の生物や環境を考える機会を提供した。

【成果③】

- ・ トヨタ財団の補助金を利用して、岡崎森林組合員の山林管理に関するアンケートを行った。アンケート結果については、岐阜県森林文化アカデミーと協働してデータ整理を行い、おがき森の健康診断報告会の中で発表した。



アンケート結果の報告状況

森づくりガイドライン

【成果①】

- ・新豊田市 100年の森づくり構想の概要について、6つの柱(①新しい森林区分(ゾーニング)の設定 ②人工林の整備状況の評価と目標の再設定 ③人工林の目標林型の設定と将来木施業(新たに追加された概念)の導入 ④木材生産・流通の低コスト化 ⑤森林保全のルールの新規設定 ⑥森づくり人材の育成)で取り組み、特に⑥については、重点的に予算をあてることが情報共有された。



豊田市の報告風景

【成果②】

- ・森林環境譲与税と新たな森林管理システムについて、最新の情報をWG内で共有した。新たな森林管理システムは、森林所有者が自ら森林管理ができない場合、市町村が森林管理の委託を受け、意欲と能力のある林業経営者に繋ぐ制度であることが周知された。
- ・林野庁は、平成29年度、30年度の2カ年計画で、水源の森づくりガイドブックを発行する予定であることが周知された。



岡崎市の報告風景

【成果③】

- ・岡崎市が国から交付される森林環境譲与税の使い途について、すべての市民が納得のいく利用は難しいとしながらも、市民との合意形成を図るための環境教育や、林業の普及啓発に取り組む方針であることがわかった。
- ・岡崎市で設置されている水循環推進協議会は、国をリードする協議会として認められており、国からさまざまな支援を受けている。今年度は東京で開かれたシンポジウムで岡崎市からの報告があったことが周知された。



フィールドワークの実施状況

【成果④】

- ・矢作川流域市村における2005年度以降の間伐面積の推移について情報共有を行い、各地域の実状について意見交換を行った。

【成果⑤】

- ・森づくりに関するフィールドワークを行った(根羽村水源の森、みかわエコ薪、神殿の森づくり会議など)。



三河湾大感謝祭における木づかい推進

木づかいガイドライン

【成果①】

- ・木づかいガイドライン策定に向けて、「さあ~しよう」という提案型の原稿作成のための依頼書について、実際に流城市町村に配布し、木づかい事例、木づかい活動等の回答を得た。今後は回答をいただいた市町村への取材を行う予定である。

【成果②】

- ・根羽村森林組合では、木づかいに関するイベントを年間45箇所程度開催した。そのうち、半分程度は東京スカイツリーなど流域外でのイベントへ出展した。

【成果③】

- ・矢作川感謝祭では、豊田森林組合が高性能林業機械を用いて、枝払いや玉切りを実演した。また、恵南森林組合はマイ箸づくり、根羽村森林組合は動く木のおもちゃ、岡森フォレスト(岡崎森林組合)は木の想いを歌にして流域市民に木の想いを届けた。



矢作川感謝祭における木づかい推進

2. 川部会 平成 30 年度の活動成果 まとめ

本川モデル

- ・国、愛知県、豊田市の各行政機関が矢作川本川で実施している河川整備対策について話題提供をいただき、整備目的・内容や進捗状況について情報共有した。
- ・高橋上流および久澄橋下流で実施されている河道内に堆積した土砂掘削と樹木伐採状況について現地視察を行い、河川環境に配慮した整備のあり方について意見交換を行った。
- ・矢作川の水質をテーマとした山、川、海の合同部会に参画し、大同大学)吉川さんが矢作川流域の水質（電気伝導度；EC）に関する研究発表を行うとともに、山、海の部会員から発表された各種テーマについて、情報共有と意見交換を行った。



河道掘削箇所視察



合同部会での吉川さんの発表

家下川モデル

- ・矢作川環境技術研究会)野田さんのご協力を得て、「家下川 ～ 歩いて観る、診る、体感するエコツアー～」を企画し、部会員で散策した。



家下川エコツアーの開催

地先モデル

- ・流域連携の一環として、昨年度から山部会主体で作成されている「流域再生担い手づくり事例集」の取材活動及びレポート執筆活動に、川部会の有志が参画した。



山部会 WG 作成の事例集紹介

3. 海部会 平成 30 年度の活動成果 まとめ

■三河湾におけるアサリ漁業実態の情報共有

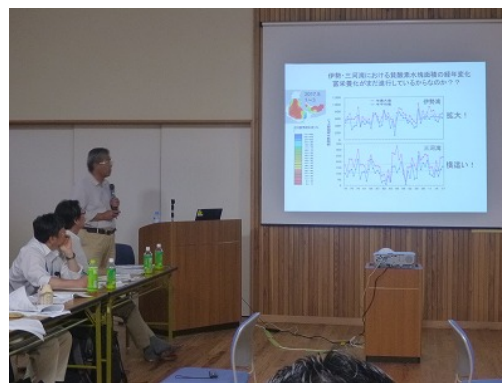
- ・吉田海岸アサリ漁場を現地視察し、吉田漁業協同組合の石川組合長から近年のアサリ漁獲量の変動と海の環境変化について話題提供をいただき、三河のアサリ漁業の実態について情報共有を行った。
- ・水質の排水規制と海の貧栄養化の関係、アサリの生息限界について、最新の研究事例と知見について鈴木副座長から解説を頂き、情報共有を行った。



吉田海岸アサリ漁場での現地視察

■合同部会への参加

- ・矢作川の水質をテーマとした山、川、海の合同部会に参画し、鈴木副座長が三河湾におけるアサリの漁獲量減少と海の栄養塩に関する研究事例、伊勢・三河湾流域ネットワーク) 井上祥一郎さんが水質浄化に関する最近の研究事例について発表されたほか、山、川部会員から発表された各種テーマについて情報共有と意見交換を行った。



鈴木副座長による合同部会での話題提供

■愛知県水産試験場による調査結果の情報共有

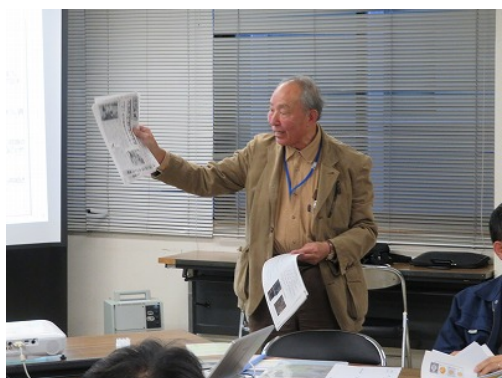
- ・三河湾におけるアサリの資源回復に向けた取り組みとして、愛知県水産試験場が実施したアサリの生態と環境条件の各種調査結果について、(全国水産技術者協会) 石田基雄さんから解説を頂き、情報共有を行った。



愛知県水産試験場による調査結果の解説

■アサリの餌となるケイ藻についての話題提供

- ・井上祥一郎さんから、アサリの成長に寄与する餌料生物＝ケイ藻の基本的な知識と矢作川流域でどのような変化が起きてきたかを解説して頂いた。



アサリの餌となるケイ藻の解説

4. 市民部会 平成 30 年度の活動成果 まとめ

これまでの活動の振り返り

- ・「ごみ・流木」「土砂」「木づかい」の3つの連携テーマにおける活動を振り返り、流域市民の視点で意見交換を行った。
- ・市民が矢作川流域の情報に触れる機会が少ないことが課題として共有された。



第2回市民部会 WG の様子

流域マップの作成

- ・矢作川の情報発信のために、矢作川流域の優れた点や問題点など、市民目線の様々な意見を地図上に列記し、空間的に情報を把握できる流域マップを作成した。
- ・流域全体に矢作川流域の良いことから悪いことまで様々な意見が散在していることを再認識した。



第2回市民部会 WG の様子

3つの連携テーマを代表する標語の作成

- ・流域連携の方向性を明確にするため、当初の3つの流域連携テーマを1つのテーマで代表できるように、標語を作成した。矢作川の恵み・大切さを再認識し、より良い矢作川流域圏の再構築を目指すというキーワードを盛り込んだ。

山・川・海の恵みにつながる矢作川をつくる
～今新たに！「流域はひとつ」生命共同体～

矢作川の流域情報のカテゴライズ

- ・矢作川の情報について、良い点、悪い点、将来を見据えた意見等について時系列的にカテゴライズした。
- ・現在の良い点・悪い点、今後解決していかなくてはならない課題が多いことを再認識した。
- ・過去の良い点を求めるのではなく、過去から学び、新たな矢作川の再構築の必要性を共有した。

	過去	現在	将来
良い点	ネコギギ、カワセミ、ジャコ、アサリが多く生息 湧水が多かった	土砂災害の減少 環境教育林の整備 郷土料理（アコ・自然薯）が食べられる 水源の清流で水と親しむ場が誕生	上下流連携の山づくり 地域資源の利用拡大
		ヘドロの蓄積	他の河川流域住民との交流 用水路・支川の利用方法の検討
悪い点	生物の生息データの記録が乏しい	水質（SiO ₂ 等）の悪化 河原の樹林化・荒廃 外來生物の増加 山の手入れ不足 農林業の衰退・後継者不足	水量の減少 中流～下流 獣害の増加
			矢作ダムを撤去したときのメリット・デメリット

流域情報のカテゴライズ結果